一般事務用機器について

谷 田 功*

図書館で使用する事務機器のうち、テレックス、模写電送写真、マイクロ機器、視聴覚器材は、別章で詳細に説明されますが、その他一般事務用機器として現在当館で使用されているものの中から便利な機器を列記し、そのうち、軽印刷についての感想を簡単にのべたいと思います。

- (1) カーデックス (2) ワイヤレスマイク
- (3) 複写器 (4) エレファックス
- (5) A・Bディック

(1) カーデックス (雑誌受付簿)——通信文、メモなども綴り込める。雑誌名の一覧性がある。だが部局によっては、研究費購入の雑誌の貸出簿と共用しているところがあり、この場合、現在の大きさ(15×20 cm)では、用紙を挟んでおくに紛失する恐れがあるので、ルーズリーフ式でB5より大きな用紙を使用し、帳簿式を採用している所もある。カーデックスで雑誌を大量に受け付ける場合、担当者は立ちづめで仕事をするので疲れるようである。

(2) ワイヤレスマイク (館内放送用)——中之島分館は縦長の建物で、事務室とカウンターが各階に分れており、昼食時などには、係員が分散することがあり、この場合、ワイヤレスマイクであれば、係員が自由に持ち運びができ、いつ、どこでも放送が可能である。また、アンプが1カ所であればよいのも経済的である。現在、マイクは2個使用している。

(3) 複写器 (ゼロックス及びリコピー)——便利さ、速さ、被写体の性格、重要性、価格面などを考慮し、使い分けしている。軽印刷としては、ゼロックスで原紙を作り、リコピーで大量数を複写している。

(4) エレファックス (電子複写製版機)——軽印刷として小型オフセット印刷機(A・Bディック)と組み合わせることにより、オフセット印刷ができる。

中之島図書館建設に何かと協力していただいた China Medical Board より寄付されたエレファックスを、大阪地区医学図書館の相互協力のもとに当館において、コンテンツ速報を毎週発行している。毎週平均1冊約40

頁で600部印刷している。この使用状況から下記のようなことが特筆されると思う。

1. 暗室は不要、液体は使わない。
1. 反射方式による複写のため、両面印刷、拡大、縮小が自由にできる。
1. 複写されたエレファックス・ペーパーが、そのままオフセット印刷の原版となる。
1. 露光時間は、平均20秒——原稿とエレファックス・ペーパーをセットし、スタートボタンを押すだけでよい。
1. 感光したペーパーの像の部分には、現像粉がのっているだけなので、不要の部分や汚れを修正棒で消去すればよい。
1. 試験問題、その他外部に洩れては困るもの、または急を要するため外注できない印刷物。
1. 電子写真の一種なので、感光紙が安い。印刷用(B4)1枚35円である。
1. 版面の非画像にインクがつかないように、エッチ液をマスターペーパー全面に塗布する。
1. 定着には熱板を通して行なうので、写真のような濃淡とか、非常にこまかい線の部分が熱のためくずれてしまう。
1. 新規購入の場合は高価である。

エレファックス 約70万円

A・Bディック 約60万円

(5) A・Bディック (オフセット印刷器)——1枚の原紙で1,000枚は印刷でき、またスピーディである。エッチ液が改良され、エッチングが簡単になった。インクも乾きにくなり、後始末が軽減したので操作が簡単になった。エレファックスとA・Bディックをセットで使用しても場所をとらない。

以上、簡単に感じたままを列挙したが、軽印刷としてはリコピー、ゼロックス、エレファックス、その他、色々と技術が開発され、従来の鉄筆と原紙による謄写版印刷の時代に比べ、労力は半減し、能率は倍加したことは、現代の情報過多時代の事務処理の迅速性、省力化のために多いに喜ばしいことである。(昭和48年10月2日受付)

* Tsao TANIDA, 大阪大学附属図書館中之島分館